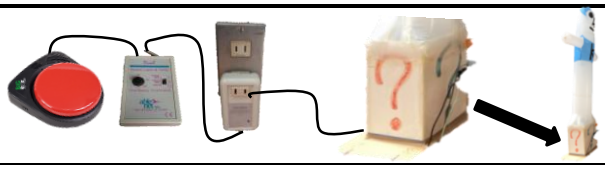
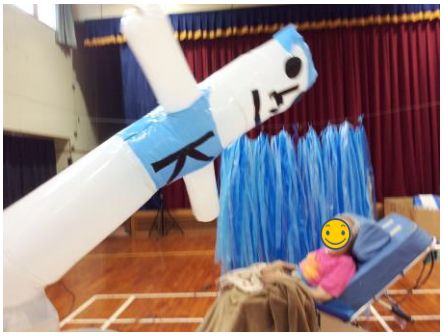
教材・支援機器活用実践事例（特別支援学校版）

	実践名（実践年度）	私を助けて！！（平成30年度　2018年度）　　マジックや手品にも応用可能
参加する授業について	教科名等 （該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。）	□国語　□社会　□算数/数学　□理科　□生活　□音楽　□図画工作/美術 □家庭/技術・家庭　□体育/保健体育　□道徳　□外国語/外国語活動 □総合的な学習の時間　□特別活動　□自立活動　■各教科等を合わせた指導 □その他の教科　□その他（　）
	単元・題材名	お楽しみ会
	授業の目標	・楽しい雰囲気を感じることができる。 ・児童生徒教師の出し物を見て、聞いて、感じて、五感を刺激し、児童生徒の興味関心の開発や拡大、及びコミュニケーションへ繋げていく。
	観点別学習状況の評価の観点 （教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。）	■「知識・理解」 ■「技能」 □「思考・判断・表現」 ■「関心・意欲・態度」 □その他（　）
	自立活動の要素	□健康の保持　■心理的な安定　■人間関係の形成　■環境の把握　■身体の動き　■コミュニケーション
学習（集団）の実態 子どもの実態	学部・学年・人数	□通常の学級　□通級による指導　□特別支援学級　■特別支援学校 □就学前　□小学生　□中学生　□高校生以降　■特定されない 9名
	対象の障害	□視覚障害　□聴覚障害　■知的障害　■肢体不自由　□病弱・身体虚弱　□言語障害　□自閉症　□情緒障害　□LD（学習障害）　□ADHD（注意欠陥/多動性障害）□その他
	子どもの課題（特性・ニーズ）	■聞く　□読む　■見る　□話す　□書く　■運動と姿勢　□計算する　□推論する　□日常生活活動　■社会性・コミュニケーション　□不注意　□多動性－衝動性　□覚える・理解する　■時間的・空間的・人的交流の制約　□その他 本校は重度重複障害を合わせ有する児童生徒が通う学校であり、児童生徒全員が自分の思いを言葉にして表現することが難しい。他者とコミュニケーションをとるために、スイッチ等のAAC機器（拡大代替コミュニケーション機器）の活用や、それを通してAAC機器に慣れ親しむことが重要である。 また、本校の児童生徒は全員が隣接する沖縄療育園へ入所しており、高等部卒業後も沖縄療育園での生活を送っていく。施設での余暇の過ごし方のバリエーションを広げるために普段からAAC機器に慣れていたい。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 （使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。）	・ステップバイステップのスイッチ ・ラッチ＆タイマー（ラッチ設定） ・電源リレー ・エアコンプレッサー（お化け） 
	活用のねらい（概要）	A コミュニケーション支援（■A1意思伝達支援　□A2遠隔コミュニケーション支援） B 活動支援（□B1情報入手支援　■B2機器操作支援　□B3時間支援） C 学習支援（□C1教科学習支援　■C2認知発達支援　□C3社会生活支援） ①補助具やAAC機器教材を活用し、物を動かしたりして楽しみながら活動することができる。 ②様々な活動を通して、嬉しい、楽しい、嫌だといった気持ちや心の変化を教師や仲間と一緒に共有することができる。
	活用方法	※例えば、誕生会で主役の誕生者に助けてもらう場合 ①　ステップバイステップのスイッチの1番目と4番目（何番目でも可）の内容を「トイ使用」で録音しておく。（これにより1番目と4番目にコンプレッサーが作動する）録音内容はお化けのセリフとした。 ②　まずスイッチを1度押し、お化けが出現！「わーっはっはーー！！」 襲われている演技をする。 ③　みんなに呼びかけ、スイッチを押すよう協力を求める。ただし、**今日誕生日に人しか倒せないお化け**であることを伝える。 ④　2番目と3番目は誕生者でない教師や児童生徒に押してもらう。（お化けは倒れない）「まだまだ修行が足りん！」「お前は今日誕生日じゃないだろう！！」等 ⑤　4番目に誕生者にスイッチを押すようお願いする。 ⑥　誕生者がスイッチを押す！　→　コンプレッサーの作動が止まり、お化けはしぼんでいく。「うわーやられたー！！」 ⑦「助けてくれてありがとう！！！」
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	・スイッチを押すことで大きなビニールお化けが音を出しながら膨らみだすので、視覚的にも聴覚的にも刺激される。 ・トイ使用の原理を知らない児童生徒は驚く。 ・誕生者を主役にすることができる。
資料	図・写真・表等 （生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。）